「大間原発 NO!」のステージ

函館の対岸に大間があります。一番近い距離で１７ｋｍ 。よく晴れた日には現在、建設中の世界初フルモックス燃料の大間原発がよく見えます。今回の祭典で、道南地域の課題である大間原発の問題に取り組もうと実行委員会で話され、スタートしました。

歌い手は道南の合唱団や個人、さらに、青森からも一緒に大間原発 NO！のステージを作りたいと２２名も参加してくださり、総勢１１０名のステージになりました。

フルートの美しい音色の中、遊ぶ子どもたちとおじいさんの姿が津軽海峡の中に浮かびます。

大間原発の炉心予定地から１５０ｍにあった（現在は電源開発が炉心予定地をずらし 300m）土地を「原発は海を汚す」と決して売却しなかった熊谷あさ子さん。その土地に「あさこはうす」を建て、今は亡きあさ子さんのお子さんである熊谷厚子さんとお孫さんの小笠原奈々さんが電源開発に監視され、原発の敷地内で生活しているとお話されていました。現在も土地を守り続け、反大間原発に大きな力と勇気を与えています。トロイカ合唱団の創作曲「空を海をいのちを」を原発はいらないと祈りを込めて歌い上げました。

そして、今なお苦しんでいる福島の子どもの陳述を宮口智琉君に代読していただき、その苦しみや思いを分かち合いました。福島の人々の思いを歌った「風よふるさとよ」は歌い手も胸が詰まる思いで歌いました。

３０年間大間原発反対の運動を続けてこられた大間原発訴訟の会代表の竹田とし子さんは裁判での不当な棄却判決に悔しさをにじませながらも、控訴し絶対勝訴することを誓ったお話には会場全体が心を震わせ、思いを共有することができたのではないかと思います。

最後に「大間原発大間違い！」とステージの締めくくりにふさわしく、ドラム、ギター、ウッドブロック、大漁旗、イカたち、横断幕を加えて、大間原発を作らせないという決意を込めて、みんなで力いっぱい歌い上げました。

三浦さんの素晴らしい演出で、「世界初のフルモックス燃料の危険」「活断層の危険」「使用済み燃料の処理の見通しはない」「大間と函館の間には遮るものは何もない」という大間原発についての命にかかわる大事なことも伝えられ、また、合唱とお話も含めて、様々な思いが共有できたステージになったのではないかと思います。

会場に足を運んできてくださった皆さん、一緒に舞台を作って下さったすべての皆さんに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

（トロイカ合唱団　M.T ）